

## 日経優秀製品・サービス賞、最優秀賞など39点表彰。

(2016/02/04 日本経済新聞 朝刊 ページ:15)

### 最優秀賞の**コマツ**社長「ドローンで精密施工 実現」

日本経済新聞社は3日、2015年「日経優秀製品・サービス賞」の表彰式を東京都内のホテルで開いた。審査委員会が選んだ最優秀賞18点、優秀賞19点、審査委員特別賞2点の計39点を表彰。独創的な技術と発想で新市場を開拓した製品やサービスが受賞した。表彰式で小宮山宏審査委員長(三菱総合研究所理事長)は「イノベーション(技術革新)がIT(情報技術)を活用して生まれてきているという印象を受けた。物量だけではない品質の高いビジネスをつかっていきたいという思いを心強く感じた」と講評した。受賞企業の代表あいさつで最優秀賞・日本経済新聞賞に建設現場支援サービス「スマートコンストラクション」が選ばれた**コマツ**の大橋徹二社長は「ドローン(小型無人機)を使って建設現場を正確に測量し、数センチ単位の誤差で制御される建設機械で精密に施工することができる」と説明。建設業の人手不足が深刻ななかで「熟練技術を習得していない作業員でも工事が進む」とその意義を強調した。燃料電池車「MIRAI(ミライ)」が受賞したトヨタ自動車の内山田竹志会長は「1992年に燃料電池車の開発を始め、22年の長い道のりを経て市販にこぎ着けた。普及には水素インフラの整備なども必要となり時間がかかるが、環境技術を磨いて取り組みたい」と話した。安全柵がいらぬロボット「協働ロボットCR-35iA」で受賞したファナックの稲葉善治社長は「35キロの重量を持つ能力を持ちながら、人が触れると止まる。これまでの産業用ロボットの概念を変える製品」と説明し、「製造現場で人間とロボットが共に働く時代を切り開くきっかけになる」と期待を込めた。

認知型コンピューター「ワトソン」が最優秀賞・日経産業新聞賞を受賞した日本IBMのポール与那嶺社長は記念パーティーで「あらゆるものがインターネットにつながるIoTなどの影響でデータは爆発的に増える」と指摘、ワトソンを通じて「企業がデータを使いこなすのに貢献したい」とあいさつした。企業向け安全運転支援サービス「スマイリングロード」が同・日経ヴェリタス賞を受賞した損害保険ジャパン日本興亜の二宮雅也社長は「昨年3月以来約250社に導入してもらい、事故が約20%減などの効果が確認された」と成果を披露。「これからも安全・安心・健康を支援する製品やサービスを開発していきたい」と話した。

芯が折れにくいシャープペンシル「デルガード」が同・日経MJ賞を受賞したゼブラの石川真一社長は「細かい加工や組み立て技術が評価された」として、「日本発の筆記具を世界にもっと広げていきたい」と語った。

表彰式の冒頭、日本経済新聞社の岡田直敏社長は「これぞイノベーション、と膝を打ちたくなる商品がそろった。受賞した製品は技術革新につながる『新結合』の条件のいずれかを満たしている」と話し、「新結合を生み出す力が日本経済の成長力になると感じている」とあいさつした。

【図・写真】日経優秀製品・サービス賞のパーティーで歓談する受賞企業の代表者ら(3日、東京都千代田区)

企業名(製品・サービス名)
<b>&lt;最優秀賞&gt;</b>
<b>▼日本経済新聞賞</b>
◦東日本旅客鉄道/西日本旅客鉄道(「北陸新幹線」)
◦ホンダ(小型ビジネスジェット機「ホンダジェット」)
◦コマツ(建設現場支援サービス「スマートコンストラクション」)
◦ファナック(安全柵がいらぬロボット「協働ロボットCR-35iA」)
◦トヨタ自動車(燃料電池車「MIRAI(ミライ)」)
<b>▼日経産業新聞賞</b>
◦日本IBM(認知型コンピューター「ワトソン」)
◦テルモ(薬剤溶出型冠動脈ステント「アルチマスター」)
◦日立製作所(鉄道車両「AT-200」)
◦住友電気工業(大規模蓄電システム「レドックスフロー電池」)
◦関西ペイント(虫よけ塗料「アレスムシヨケクリーン」)

